

銀杏学園 短期大学 同窓会だより

平成13年度

特集 熊本保健科学大学(仮称) についてのQ&A

「次代への飛躍を目指して」



銀杏学園短期大学学長

酒匂 光郎

20世紀の大きな変動を乗り越え、21世紀への期待と不安を抱きつつ新年を迎えて、はや初年も残すところ50日弱となりました。この1年は、政治経済共に世界中が混沌としております。その中であつて同窓の皆様方には、各自の分野に於いて頑張っておられる事とお慶び申し上げます。本校も財団法人化学及血清療法研究所の公益事業の一環として、昭和34年3月に産声をあげて以来、42年の月日を経、約4000名の方々が立派な社会人として、世の為、人の為に勤めておられる事は、教職員は勿論の事、後輩の学生達も誇りに思っております。

総べての分野で、科学技術の進歩は目覚しく、かつ専門化していく事は、先輩の皆さんが最も痛感されておられる事と思ひます。今後、この様な

環境の中で社会の一員として活躍出来る学生の教育は如何にあるべきかを、同窓の方々との話しの中でも感ずるのは、医療に関係する業に携わる者としての倫理観をしっかりと持ち、積極性に加えて相手の立場になつて考え、規律性も具えた人間として魅力がある上に、専門的知識も短い期間で適応出来る技術者候補として教育する様にしたいと思っております。

その為には、専門課程を学ぶ前段階としての基礎となる学科をも、しっかりと身につける事が重要となる事や、世間での少子化などの事を勘案し、学校を存続させる事が同窓の方々に対して私共の責務と思ひ、現在、四年制大学設立認可を取得させて頂きたく努力いたしております。皆様方の御鞭撻、御助力をお願い申し上げます。

ご挨拶



銀杏学園短期大学同窓会会長

梅橋 豊蔵

希望をもつて向かえた21世紀のスタートは日本経済の混迷度が益々深まり、日本を代表する大企業でさえ経営に行き詰まり、倒産や雇用調整を余儀なくされるというまさに厳しい淘汰の時代の到来となりました。これに追い討ちをかけるように、悪夢のような凄惨なテロが米国で発生し世界を震撼させたかと思うと、対テロ戦争勃発、そして生物兵器まで登場し、先進諸国がほんの握りのテロリストに攪乱され続けています。中東やアフガンの状況を報道される度に、なんと幸せな国に生まれてきた事だろうと感謝すると共に、宗教的な教えを含め人の教育がいかに大切であるかということに再認識させられます。多少平和ボケと揶揄されている幸せな日本ではありませんが、国家間、民族間、宗教派閥間で、ごく普通に武力を手段として凌ぎを削りあっているのが現実の世界だということに認識し舵取りを誤ると日本も巻き込まれるという怖い現実も

また隣り合わせにあることを忘れてはなりません。生あるものは必ず滅す。という理どおり、人の命も事業体の命も今日があるから明日も安泰という保証はありませんが、なんとなく心に安穩さがなくなつたと思ふのは気のせいでしょうか。

銀杏学園短期大学が、いよいよ4年制大学としてスタート台に立とうとしています。現在仮称「熊本保健科学大学」として平成15年4月開学に向けて、内野稔自理事長並びに酒匂光郎学長はじめ関係各位が粉骨砕身の努力を重ねておられます。同窓生にとって、卒業した学校が萎えていくのではなく、ステップアップして発展して行けるということとは、誠に喜ばしいことでもあります。ただ、4年生大学の開学には莫大な資金が必要と伺っておりますし、是非同窓会としましても微力ではありますが積極的に協力したいと考えております。しばらく後に会員の皆様方個人に大学当局より募金協力依頼があるかと存じますが、募金予定総額6億円のうち、同窓会で2千万円が計画されております。母校が今後発展して行くには、多くの卒業生が開学に向けてバックアップしたという実績が大きな礎となります。同窓生の皆様には何かと出費多端な折とは存じますが、ご理解戴き何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成14年1月26日(土)、昨年と同会場の熊本ニースカイホテルにおきまして、「第29回技術講習会」を開催すべく、銀大16回生を中心として鋭意準備中であります。今回も準備委員会の皆さんが魅力ある講習会開催に向けて懸命に努力されておられますので、是非多くの会員各位のご出席をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様方の益々のご健勝ご活躍を祈念申し上げます。

熊本保健科学大学(仮称)についてのQ&A

銀杏学園短期大学は、平成15年4月から4年制となり熊本保健科学大学(仮称)と名称変更しスタートします。企画部で、この件につきまして事務局の橋本寛さまに質問をいたしました。銀杏学園短期大学発行の「ぎんきょう」にも4年制移行についての記事がありますのでご参照下さい。

なお、熊本日日新聞11月2日(金)付け朝刊第一面にて、銀杏学園短期大学4年制移行に関する記事が掲載されましたのでお知らせいたします。

① 4年制大学への移行が決定した経緯について教えてください。

A 背景には教育環境の変化があげられます。少子化は就学人口を低下させています。ある統計によると新規高卒の人口は2001年に134万人であったものが2008年には110万人に減少すると予測されています。短期大学では現役志願者が激減し2001年16万人が2008年には8万人になると予測されています。4年制大学進学者と、専門学校進学者へと2極分化の方向に進んでいます。

次に、臨床検査技師教育制度の現状ですが、一部の国立、私立大学では既に保健学士の育成が図られております。その背景には医療の高度化、多様化、検査技師の職域拡大への対応があると思えます。臨床検査学の分野では遺伝子検査、生殖医療技術、臓器移植検査、医用工学技術、情報科学など教育内容の高度化が求められています。

少子高齢化に対応し、新カリキュラムに即応した人材を育成していく為には従来の短期大学教育では不十分です。4年制大学として魅力ある特色を持った展開をしなければやがて淘汰される

ことは必至です。本学は4年制大学への改組転換を図り、医療分野の高度化や、少子高齢化の時代に即応した魅力満載の学園を創造することで時代の要請に応え、学園の存続と発展を図ることにしました。

② 今後の展開について教えてください。

A 15年4月の開学を目指しています。14年4月には文部科学省に本申請を提出し6月構想審査、7月には教員・教科審査、10、11月にかけて実地調査があり、順調に行けば12月に認可が下りる見込みです。

③ 看護科も4年制になるのでしょうか？

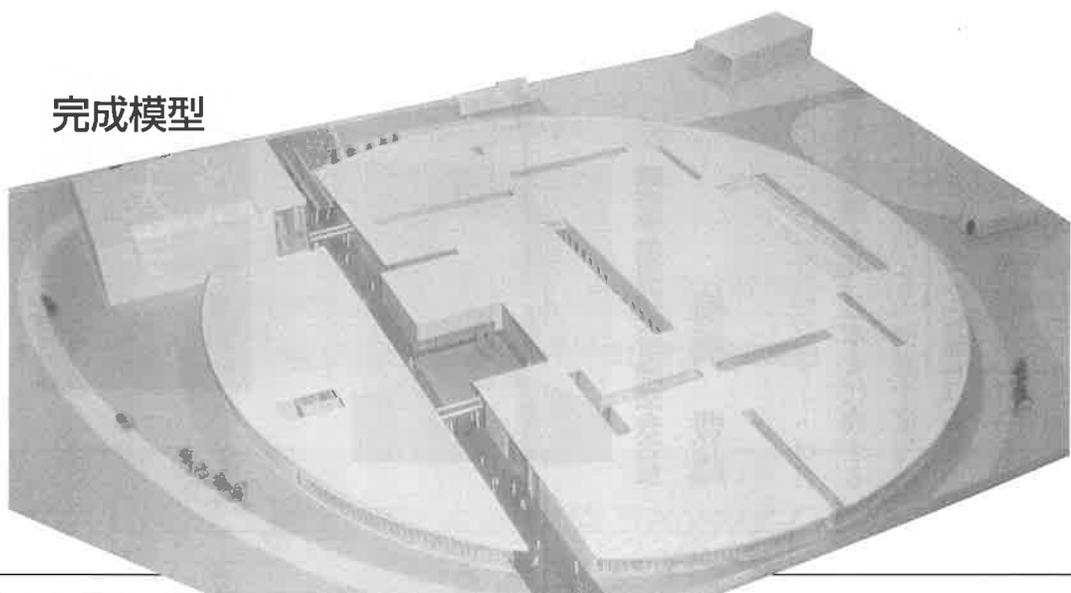
A 勿論、看護科も4年制になります。従来は准看護婦の免許を取得しているか、取得見込みの方しか出願出来ませんでした。今後は高校普通科の方も受験出来るようになります。看護系の4年制大学設置は増加しています。その背景には少子高齢化を迎え、患者の側に立つQuality of lifeの確保が必要になったこと、医療の高度化に対応する看護知識、看護技術の向上を求め、更に、看護婦(士)保健婦(士)の充足が図られていく中で「看護の質の向上」が不可避になってきた事も挙げられます。一方で看護職の資格に看護婦(士)、准看護婦(士)が2種類あるのは世界の中で日本だけであるという現実があります。厚生労働省も既に准看護婦(士)制度の早急な廃止を掲げております。本学でもこれらの情勢に対応する為に高度の看護技術と、高い倫理観を身につけた人材を育成するために4年制化を実現しなければいけないと考えています。

④ 4年制大学のメリットについて教えてください。

A 学生にとっては、従来の臨床検査技師、看護婦(士)の国家試験受験資格の他に、多様な進路選択が可能になります。チーム医療の考え方に基いた保健婦(士)、CRC、MR対応、遺伝子検査、生理、画像検査、細胞診検査などの研究系の充実や、情報系国家資格、食品衛生(Haccp)関連等の進路も決定される予定です。この様な教育を通じて医療の高度化に即応し、ひいては職域の拡大に繋がっていくことが大切だと思います。

⑤ 卒業生にどのような影響があるのでしょうか？

A 4年制大学に改組転換することで、ハード(校舎、機器備品、図書のみならず、ソフトの部分)の充実が図られます。当然新たなカリキュラムに即応した教員の招聘も行われます。卒業研修、公開講座、協同研究の場としても熊本保健科学大学を活用して頂きますし、ハード、ソフトの公開を通じて、卒業生の皆様や地域社会との連携を深めていきたいと考えています。



空間構成図 (Spatial Composition Diagram)



学園からのお知らせ

熊本保健科学大学(仮称)創設に伴う募金趣意書を近日中に発送させていただきます。同窓会の皆様には、何かと出費多端の中で大変厚かましいお願いになりますが、本学発展のためにご協力の程宜しくお願い申し上げます。